

太陽観測機の国内贈呈式

ペルーに贈られたコロナグラフの国内贈呈式が1965年10月21日に
福知山の友繁鉄工所において行われた。器械のうしろは奥田京大総長。

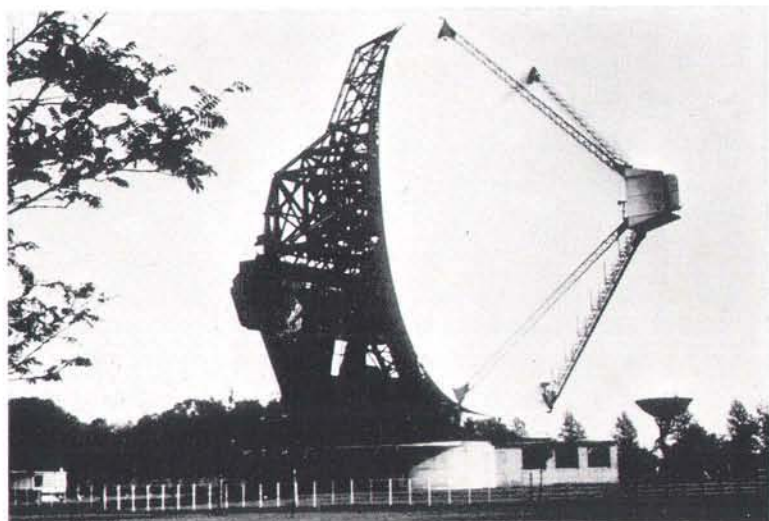


日本天文学会 1966 年秋季年会記念写真



10月20日夜の懇親会席上にて挨拶される台北天文台長蔡章献氏（マイク前）。蔡氏は日本天文学会秋季年会出席のついでに日本の天文学界の視察に来日された。蔡氏以外の人物は、左より鏡木、能田、奥田、宮原の各氏である。

イギリスの新しい電波望遠鏡 (赤羽氏撮影)



ジョドレルバンクに新設された楕円形全天可動アンテナ。今までの 75 m アンテナを Mark I、これを Mark II と呼んでいる。現在は OH 線の円偏波の観測を行なっている。アンテナの駆動精度及可動範囲を極端に向上させ、而もアンテナが大きな開口面を持つための条件として楕円形アンテナが登場した。

Cavendish Laboratory (Cambridge) で Ryle が新しい観測を始めた 3 アンテナ干渉計。2 基が固定 (約 1 km) で他の 1 基が約 1 km のレールの上に乗っている。地球の自転を利用して source の map を描いている。周波数は 1420 Mc, 408 Mc 及び 170 Mc でこのうち 2 周波は同時観測が可能である。アンテナは夫々直径 20 m。ラジオ星の型録や微細構造について飛躍的な進歩が期待されている。

